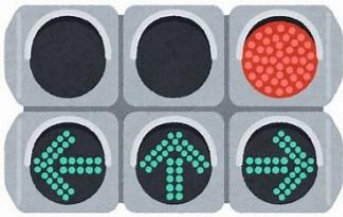


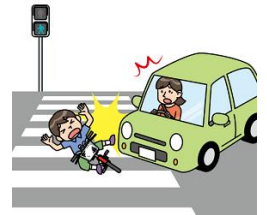
矢印信号と青信号に違いはあるの？



左折・直進・右折の矢印が点灯している信号をみる必要がありますね。

どっちに進んでもいいのなら、青信号でいいのではないかと思います。青信号との違いはあります！

青信号と違う理由は、特に右折する際にあります。通常の場合、右折するには「対向車」「横断歩道の歩行者」などに十分に注意しなければいけません。



ですが、右折矢印信号になっていると「対向車はこない」「横断歩道に歩行者はいない」ということが前提としてあるので、青信号で対向車や歩行者を気にして右折する場合よりもずいぶん安心して右折できます。信号が青の場合、対向車の流れが切れなければ、なかなか右折はできませんが信号が赤になり右折の矢印が出れば、スムーズに右折することができますね。それと同じ状態で、スムーズな右左折ができる状態を作っているのが矢印信号になるようです。



時差式信号



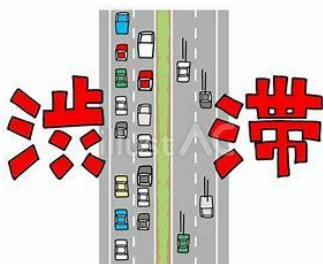
また、片側の通行用の信号に時差式信号がありますが、時差式信号ということは青信号で直進や右左折をするわけですが、青信号だと対向車側も青信号かも…と思うと慎重になりますよね。

矢印信号だと赤信号なので「対向車は来ないから安全して右折しなさい」というようなメッセージを与えることになるのだそうです。

渋滞緩和、円滑な交通の流れを良くするための矢印信号なのです。なるほど、そうだったのかと思いますね。



だからと言って、矢印が出ていればなんの確認もしなくていいというわけではありません。スピードを出したまま進行しても大丈夫というわけではありません。あくまでも交差点を右左折するときは徐行です。



渋滞は、誰でも嫌なものです。通勤・帰宅時も出かける時も渋滞していると嫌な気分になりますね。そんな嫌な気分でもイライラしながら運転しているとヒヤッとすることも。

渋滞が少しでも無くなって円滑に走行できるようになるのがいいですね。

